

開館15周年記念特別展 I

江戸絵画の至宝 — 琳派と若冲 —

平成25年 1月3日(木)～3月10日(日)

細見美術館

開館15周年記念特別展 |

江戸絵画の至宝

— 琳派と若冲 —

平成25年 1月3日(木)～3月10日(日)
※期間中 展示替え有

細見美術館は平成10(1998)年、京都・岡崎に開館し、日本美術を中心にさまざまな視点から展覧会を行ってきました。

大阪の実業家、初代・細見古香庵(1901～1979)に始まり、3代にわたって蒐集された収蔵品は、縄文、弥生時代の土器から近代の琳派画家の作品まで、日本美術史を辿る多様な作品からなります。中でも琳派と若冲という江戸絵画の中でも極めて魅力に富む画家たちの作品のコレクションは充実した内容となっています。

このたび細見美術館開館15年を記念し、第一弾として特別展「江戸絵画の至宝—琳派と若冲—」を開催いたします。

本展は、本阿弥光悦・俵屋宗達から尾形光琳・乾山兄弟、酒井抱一ら江戸琳派に至る華麗な様式、また伊藤若冲のユニークな画風を存分に味わえる、細見コレクションならではのインナップとなります。

日本美術のもつ優美さ、繊細な感性、時に大胆なほどの力強さに触れていただける機会となります。

主催 細見美術館
休館日 毎週月曜日(祝日の場合、翌火曜日)
開館時間 午前10時～午後6時(入館は30分前まで)
入館料 一般1,000円(800円) 学生800円(600円)
※()内は20名以上の団体料金
会場 細見美術館 京都市左京区岡崎最勝寺町6-3
TEL075-752-5555 <http://www.emuseum.or.jp>

お問合せ先: 広報担当 三宅 由紀
TEL / 075-752-5555 FAX / 075-752-5955
E-MAIL / kouhou@emuseum.or.jp

祝! 15周年

スペシャルトーク Part 1
作品を目の前に
コレクションを熱く語ります。

2013年、開館15周年を記念した展覧会を開催します。
記念Yearならではのイベントもお楽しみください。

館長と巡るギャラリーツアー
講師 細見良行(細見美術館 館長)
2月23日(土) 14:00～

ギャラリー講座
講師 岡野智子(細見美術館 上席研究員)
①1月26日(土) ②3月2日(土) 各14:00～

聴講無料 ※ただし別途入館料が必要です

展示構成

1 華麗なる琳派

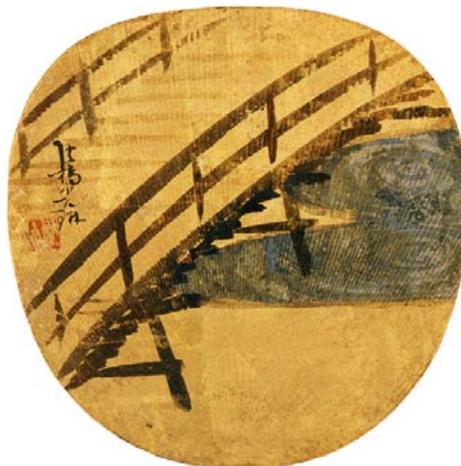
琳派の源流は京都にあります。江戸初期の本阿弥光悦・俵屋宗達による大胆かつ装飾的な作品にはじまり、中期の尾形光琳・乾山兄弟がそれぞれ独自の様式を確立。平安の頃より京が培ってきた美意識を踏まえながら、当世好みの華麗な世界を創造しました。また江戸後期には、中村芳中がたらし込みを多用したおおらかな作風で人気を博しました。

これらの京琳派に対し、江戸後期の江戸で新たな琳派様式を描いたのが、酒井抱一を筆頭とする江戸琳派です。抱一や弟子の鈴木其一らは光琳に多大な憧れを抱きつつも、江戸らしく洒脱な作風を得意として大きな人気を博しました。

江戸時代に花開いた琳派の系譜を多くの画家と作品で辿ることができる内容となり、それぞれの画家の個性、多様な画題など見どころは尽きません。



俵屋宗達 伊勢物語図色紙「大淀」



尾形光琳 宇治橋図団扇



酒井抱一 桜に小禽図



鈴木其一 水辺家鴨図屏風

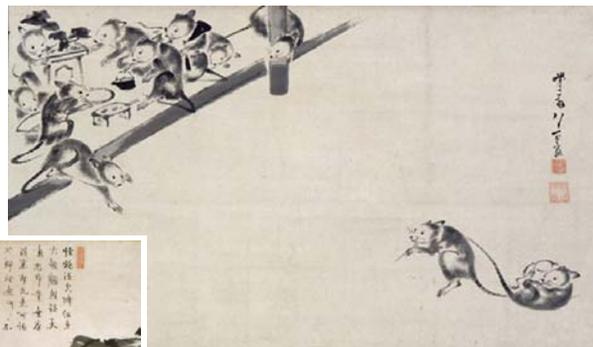
展示構成

2 若冲の魅惑

伊藤若冲ほど近年話題をさらった画家はいないでしょう。京都・錦小路の青物問屋の主人でありながら、40歳を機に家督を弟に譲って画家として第二の人生を歩み出します。卓越した描写力に支えられた独創的な画面は、江戸中期の京都画壇に旋風を巻き起こしました。特に鶏を好み、生气溢れる鶏図を多く描いています。

若冲は、相国寺に奉納した濃彩で緻密な「動植綵絵」33幅が特に有名ですが、一方水墨による屏風や掛軸もかなり手がけ、高度な技法を駆使した水墨表現や、意表をつく構図、愛らしい表情など、若冲の手腕は墨のみによっても冴え渡っています。

本展示では、若冲の最も初期の貴重な作品「雪中雄鶏図」を掲げるとともに、水墨で披露された彼独自の世界を中心に陳列します。



伊藤若冲 鼠婚礼図



伊藤若冲 瓢箪・牡丹図



伊藤若冲 雪中雄鶏図



伊藤若冲 鶏図押絵貼屏風